



宝清寺

三十二年を迎えて

「ミリンダの王の問い」という仏典に、
仏道修行者の持つべき姿と鶏の生態が「も
のがたり」として紹介されています。
「○鶏は昼は目が見えても夜は見えない。
仏道修行者は眼は見えても目の不自由な人
と同じようにすべきである。○鶏は地面を
突ついで食物をついばむ。仏道修行者もそ
のように何度も省察して食物をとらなければ
ならない。○鶏が決まった時刻に起きる
ように、仏道修行者も時を決め塔廟の庭を
掃き、食事をし、身体に留意し、礼拝し、
再び空寂の場所に入るべきである。○鶏は
杖や棒で打たれても自分の家から離れるこ
とはない。仏道修行者は裁縫する時も、精

舎を新しく建てる時も、日常のいろいろな
お努めをする時も、また自ら経典を唱える
時も、他の人が経典を唱える時も、正しい
努力、正しい注意を怠ってはならない。こ
のような正しい注意と努力こそが、仏道修
行者の住むべき自らの家なのである。」と
「仏典」では、どんな時でもコツコツと餌
をついばみ、朝早く起きる鶏の勤勉性をた
たえ、仏道修行者もこのようにあるべきだ
としていいます。日本人は生来「勤勉」を旨
として、その持てる民族性を遺憾なく發揮
し今日の繁栄を築いたはずなのに、現代人
には「自らの幸福には鈍感で、不幸せに敏
感に反応し、自ら努力せず人をうらやむ人
が多い。」ような気がして残念です。
(記入方法については同封の記入例を参照
して下さい。)もし、用紙を紛失された方
は、管理事務所にお申し出下さい。
平成十七年より、管理料について、次の
通り変更されます。

①、管理料の自動 払込について

年間管理料の自動払込の手続きについ
てお願い致しましたところ、**たちはな墓苑**
をご使用の皆様のご協力の三分の一に当
たる方々のご協力が得られました。
当山として、年間管理料の自動払込のご
協力が得られれば、寺務処理上大変助か
ります。

手続きは、今から でも間に合います。

平成十七年一月末日を締め切りとさせ
て戴きますので前回のたちばな新聞に同封の
郵便局自動払込利用申込書用紙(払い込み
口座番号・払込先加入者名記載済み)に、
口座番号・口座名義人の住所・氏名・電話
番号を記入し、捺印の上、同封の封筒(切
手不要)に入れ、返信をお願い致します。

②、身延山五重 塔再建の寄附

身延山五重塔再建の寄附の依頼が
あり、当山関係の皆様方にお願
い致しましたところ、
平成十六年十二月末日までに、
七十九名の方から、
総額一、二六一、〇〇〇円
の浄財が寄せられました。
お一人で三〇〇、〇〇〇円の寄附
をされた方から、一万円あるいは数
千円の方と金額はまちまちですが、
貴重な浄財を寄せられた皆様方に住
職として、厚くお礼申しあげます。
寄附に関して、寄附は幾らぐらい
したら良いのか、締め切りはいつ迄
か等の問い合わせが多くありまし
た。

そこで、再度のお願いですが、こ
れからご協力を戴ける方は一口一万
円、締め切りを平成十八年十二月末
日とさせていただきますと思いますが、
この金額にこだわらず、数千円でも
結構ですので、一人でも多くの方々
のご協力をお願い致します。

住職として、お檀家の皆様や橋本
苑ご使用の皆様幅広く呼び掛け、一
人でも多くの皆様の気持ちをまとめて
目標額の五、〇〇〇、〇〇〇円を達
成したいと考えています。
持参が難しい方は、寄附専用口座
を作りましたのでご利用下さい。
多摩中央信用金庫 秋川支店
普通 一六七二一〇一
宗教法人宝清寺 石井 前珠

平和祈願の象徴でもある五重塔の再
建です。是非、ご理解とご協力をお
願い致します。

外、他銀行より振込まれる方の手数料は、
今まで通り本人の負担とさせていただきます。

③、秋川仏教会 沖繩団参旅行

平成十六年度秋川仏教会主催沖繩団参
旅行は、十一月四日〜六日の二泊三日の
日程で実施されました。

四日は慈眼寺・首里城・守礼門・護
国寺参拝
五日は平和記念公園・ひめゆりの塔
琉球料理と舞踏鑑賞
六日は今帰仁城跡・美ら海水族館め
国際通り自由散策

宿泊は沖繩サミットで使用された名護
ザ・ブセナテラスビーチリゾートホテル
に宿泊、全行程晴天に恵まれ、高齢の方
も参加されていましたが一人の病人も怪
我人もなく、平和祈念堂祈念象前で慰霊
法要が行われ、減多に経験出来ないこと
と、参加者全員が感激していたのが印象
的でした。参加された方の中には仏教
会の旅行は企画が良いので次回の旅行も
今から楽しみだとの声が聞かれました。
平成十七年度の団参旅行は、長谷寺を
中心に、高野山、室生寺など、前年度と
同時期に実施できるよう検討し、六月に
資料が配付される予定が決まりました。

資料が出来次第配布いたしますので振
つての参加をお願い致します。
たちはな新聞も、平成四年三月一
日に創刊の第一号を皆様にお届けし
てから、今回で第五〇号の発行とな
りました。

皆様から、「第一号から全部ファ
イルしてとってあるよ。」「お寺の
情報がよく分かり安心だ。」等、励
ましの言葉に支えられて続けられた
と思っています。今後も、年四回の
発行を続けていきますので、是非お
読み戴けますようお願い致します。